

二〇〇七年度国文学会集報

・研究発表会

三島由紀夫「サーカス」成立考

——執筆時期と改稿原因をめぐって——

田中裕也（本学博士課程前期課程）

幕末期オランダ語初学者のための辞書

——『改正増補蛮語箋』の享受の一形態——

丸山健一郎（本学博士課程前期課程）

・講演会

文学における浅草

久保田淳（東京大学名誉教授）

△講演会▽ 学生会主催

二〇〇七年一月二日 寒梅館二〇八番教室

・これからの日本文学研究 小森陽一（東京大学教授）

△同志社国文学▽

第六七号 二〇〇七年二月二五日発行

収載論文八編

第六八号 二〇〇八年三月二〇日発行

収載論文八編

△国文学会会報▽ 第三五号 二〇〇八年三月二〇日発行

二〇〇七年度国文学会活動状況

△新入生歓迎会▽ 学生会主催

二〇〇七年四月六日（金） 京田辺校地生協食堂

△国文学会総会・研究発表会▽

二〇〇七年六月二四日（日） 寧静館5F会議室

・総会

・研究発表会

近世怪談集と中国説話

——『拾遺御伽婢子』を中心に——

神明あさ子（本学学部卒業生）

わたしの教科指導、わたしの進路指導

——県立高校での実践の記録——

加藤直志（名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校）

現代日本語における和語の音素分布

入江さやか（本学博士課程後期課程）

△国文学会研究発表会・講演会▽

二〇〇七年十一月二日（日） 寒梅館地A会議室

二〇〇七年度修士論文題目

中世漢楚合戦譚における唐土の風景とその影響

松 沢 佳 菜

宝暦期上方歌舞伎の作劇法

守 屋 美 紀

——並木正三と竹田治蔵のつながりを中心に——

中村七三郎の肥大化

高 橋 さやか

——名古屋山三郎の投影を一因に——

蛇女房譚の昔と現在

プロハースコヴァー・カテリナ

——日本人のアニメマ像——

北原白秋『思ひ出』『骨牌の女王』における童謡

山 脇 睦 子

『上海の蟹』における一九四四年の武田泰淳

——「中日文化協会」とそのかわる中国—— 高 燕

—— 文人を中心に ——

三島由紀夫作品への郡虎彦・イエイツの影響

山 本 智

—— 「中世」を中心に ——

幕末・明治期における通俗語学書の研究

—— 箕作阮甫『改正増補蛮語箋』の享受に —— 丸 山 健 一 郎

ついで——

二〇〇七年度卒業論文題目

『万葉集』における梅の花の特徴について

河 野 尚 吾

高市黒人の近江旧都歌群

大 場 貴 文

—— 巻一・三三番歌の考察から ——

『日本国現報善悪霊異記』に見る仏教の変容

松 井 美 詠 子

—— 「道場法師承説話」を例として ——

『源氏物語』における扇の意味

浅 間 由 香

—— 夕顔物語をめぐって ——

葵上周辺の描写における不整合

正 成 由 美 子

『源氏物語』における明石の君と音楽

伊 藤 香 織

少女から母へ

夏 秋 ま じ か

—— 雲居雁の成長と変化 ——

『源氏物語』における「俗聖」

篠 原 三 穂

—— 薫の内的由因 ——

『源氏物語』における『竹取物語』の引用

大 内 貴 哉

—— 宇治大君をめぐって ——

『源氏物語』における人物指示表現

藤 原 夏 実

—— 「名」の認識から考える ——

『源氏物語』『栄花物語』における衣装表現

浅 田 磨 央

—— 無彩色の色 黒・白 ——

『源氏物語』における衣色の象徴について

——色の系統分類と人物造型の関わりから——

飯塚智絵

『源氏物語』における「多涙性」の考察

——他作品との比較分析を中心にして——

長濱壽一

十五年戦争下におけるナショナリズムと源氏物語

——源氏物語をめぐる戦争下の三つの論争

清田康晃

を通じて——

『源氏物語』の英訳に関する一考察

——「朝顔」宮の英訳比較を中心に——

小堀奈穂

恋愛歌から見る紫式部の特異性

『建礼門院右京大夫集』の構成と表現

——248・249番歌をめぐる——

瀬崎紀子

西行における身心分裂

藤原定家の和歌における嗅覚的表現

『今昔物語集』にみる成合寺説話

『今昔物語集』巻二十六第一語考

『今昔物語集』道成寺説話

『方丈記』と通世地

——大原と日野——

井口歩

森島千奈津

吉岡真由美

堀佳那子

義山美佳

安井美樹

吉田七瀬

小堀奈穂

瀬崎紀子

『宇治拾遺物語』第一一四話「伴大納言、応

天門を焼く事」考

荻野舞子

『宇治拾遺物語』「雀報恩事」

——韓国の昔話「ホンブとノルブ」との比

金恩愛

較をめぐる——

『平家物語』の女性像の変化

『平家物語』巻七「忠度都落」について

修羅能と『源氏物語』

——須磨を舞台とする能作法の発展——

謡曲〈蘆刈〉考

——物語の展開と擬音語の効果について——

狂言における山伏の呪文

——「橋の下の菖蒲」と反問の関係——

『御伽草子』「一寸法師」考

『御伽草子』四方四季考

御伽草子『鉢かづき』の特質

——鉢と観音信仰をめぐる——

昔話「猿智入」考

昔話「お銀小銀」考

池村未奈

渡邊瞳

村上奈津子

家原彰子

柴田祥衣

西村早貴

長野佑美

後藤拓哉

滝悖史

鈴木亘

『好色一代女』と小町説話

——説話との重層的な関係について——

畑尾 香里

『兼好法師物見車』の典拠について

——『太平記』『徒然草野槌』を中心に——

横田 直生子

忠臣蔵における上方歌舞伎の特色

若園 里加

『妹背山婦女庭訓』

——構造の対称性から見る作品の魅力と特徴——

林 希美

歌舞伎における「身振り」再考

——『役者身振 水面鏡』分析——

高岡 里衣

怪異としての虫

——京伝作品を契機に——

小谷 奈央

『藤娘』の系譜

——『藤娘』は娘であるのか——

池辺 さやか

蝶がもつ二つの顔

——古代から近世における文学作品や芸能

栗林 恵里菜

の中に見られる蝶の意味の二面性——

吉原研究

——仮宅と切手——

高寄 真梨恵

俄研究

——素人の即興喜劇——

赤井 仁美

子ども絵本と見世物

附祭と芸能

野田 久乃

——天保の改革前後——

小野 碧

文明開化と開化都々逸

立辻 弘樹

『行人』の中の家族

松田 祐司

泉鏡花の描いた「星」

——「星女郎」をめぐる——

四方 彩瑛

小川未明「赤いろうそくと人魚」考

——未明独自の童話の世界——

山田 真由実

『お目出たき人』を笑う「お目出たき人々」

物語から滲みでる味

原田 紫

——『美食倶楽部』における視覚の受容と

否定——

三宅 良昭

谷崎潤一郎「母を恋ふる記」考

——谷崎の求めた「母」を探る——

中西 真由子

三つの「正」

——発禁・検閲を中心にして——

塚田 高史

『蓼喰ふ虫』における貞操観と読者の受容

回歸する装幀

木原 悠紀子

——萩原朔太郎装幀考——『定本青猫』を中心に

内田 大貴

『枯木のある風景』

—— 写真と象徴の混合酒 ——

村井泰介

焼跡への誘い

—— 「母の上京」「焼跡のイエス」に見る

福岡弘彬

佐藤春夫「指紋」論

—— 「探偵小説」「ドッベルゲンガー物語」

漣 夢大

切りとられた生命の輝き

「路上」引力 ——

「活動写真」の三角 ——

『火華』論

—— 新聞小説読者とその現実 ——

下山雅司

ズアツプ技法 ——

私小説の機能と中島敦作品に見られる「斗南

先生」

後村 勇

「注文の多い料理店」と「どんぐりと山猫」論

—— 山猫から見る森 ——

小柳 瞳

太宰治「人間失格」

—— 錯綜する「世界」と失格者への要請 ——

相川 直樹

宮沢賢治『銀河鉄道の夜』論

—— 登場人物から見る賢治の思想 ——

林 さやか

太宰治と酒

壺井栄『二十四の瞳』論

—— 作品に表れる子ども ——

岩井 絹恵

川端康成『波千鳥』論

—— ゆき子へ託された「救い」 ——

石田 未央

三島由紀夫『禁色』における男色の作用

『美しい星』にみられるSF的手法と幻想性

近藤 はるか

法律と『午後の曳航』

虚無の海

押海 裕美

「日本のダダ」再考

—— 中原中也を視座として ——

井浦 まいこ

—— 中井英夫と虚無への供物 ——

中島 伊代

吉行淳之介『暗室』

——引用文から見る吉行の理想的 土門 蘭

性世界——

遠藤周作『悲しみの歌』論

——登場人物から見る作品の位置付け 浜田 茉莉子

向田邦子『父の詫び状』

——変わりゆく父親像—— 下中 麻里

宮本輝『泥の河』論

——信雄と喜一の通過儀礼—— 藤岡 洋貴

村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワ

ンダーランド』論 玉村 沙里依

——アンチ・ユートピアとしての「世界の

終り」——

村上春樹『海辺のカフカ』論

——「悪」に傷ついたものがどう救われるか—— 白井 愛子

山田詠美『色彩の息子』における色表現

江國香織『ホリー・ガーデン』における恋愛 中塚 ふみ

関係 小林 千津

——飲み物を通して——

梨木香歩『裏庭』論

中村 あさぎ

「水のなかの目」を通して石田衣良の描いた

『池袋ウエストゲートパーク』を見る

万葉集における「うつせみ」の挽歌的性質

平安時代の和文資料と訓点資料に共通する語

——程度小を表す「イササカ」「スコシ」

「ヤヤ」について——

宣命における係助詞について

擬音語・擬態語的表現について

——萩原朔太郎の詩を中心に——

星新一のショート・ショートの研究

——冒頭文と末尾文の役割——

日本文学における感情表現

——小説を中心に——

現代小説における擬声語・擬態語

——使用対象からみた特質にて——

ライトノベルの文体特徴

——純文学と児童文学を比較対象として——

新聞社説における逆接表現について

——『シカシ』『ダガ』を中心に——

新聞広告における句読点と記号使用の変遷

松田 千尋

池田 有里

井上 智子

小林 恵理子

新井 麻美

青枝 さゆり

濱野 真実

田中 翼

山本 譲

曾我部 雄太

館山 大輔

テレビ番組における「ら抜き言葉」使用の考察

山田 諒生

広告における外来語の使用率の変遷

大城 剛央

「お・ご」される・する」の誤用をめぐる

稲森 祐

——留学生の意識調査——

富岡 恵里

新語の全体像についての考察

有田 雅貴

言語的ステレオタイプの男女差について

高野 真璃衣

若者の言葉づかいと言語意識について

秋山 英司

現代女性名の類型と変遷

林田 泰幸

若者語におけるオノマトペの使用をめぐる

橋部 怜子

歌謡曲のタイトル論

島田 啓介

—— アンケートに見る年代差・男女差を中

心に——

a i k o の歌詞について

東 祐代

富山県方言について

阿波 加恵里

—— 映画「パッチギ！」を例に——

中山 泰地

佐久方言の伝承

竹内 和輝

映画『My Fair Lady』の Cockney

岩城 裕

—— 一族における方言の伝承を通じて——

(cockney)における glottal stop について

京都府方言における第三者待遇表現

森元 志歩

—— 「ハル」「ヨル」に着目して——

出雲方言の残存・衰退とその性質について

坪倉 慧

—— アンケート調査による語彙レベルでの

考察を中心に——

留学生の方言使用の意識について

竹本 亜衣

—— 日本人の意識と比較して——

外来語カタカナ表記の“ゆれ”と傾向

—— 『現代雑誌の語彙調査』を用いて——

鬼頭 智子

—— 『現代雑誌の語彙調査』を用いて——

鬼頭 智子